

企業と連携してウメ園を再整備

「取組のポイント」

- ✓ 水田エリアの集積・集約化後、さらに樹園地の集積・集約化にも取組
- ✓ ウメ加工業者と農家が設立した法人に園地をまとまった形で貸付

地区の概要

中山間地域に位置し、水田エリアではH27年度から農地バンク事業により集積が進められていたが、山際のウメ栽培エリアは、高齢化や獣害により遊休化の恐れがあり園地の維持が心配されていた。



【左:整備前/右:整備後】

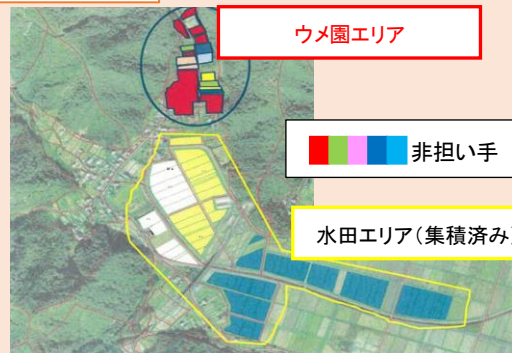
取組の内容

- ① 若狭町は「福井ウメ」の産地として発展してきたが、園地の老朽化・担い手の高齢化等に伴う生産量の減少による産地の衰退が心配され、JA・町・県により梅産地構造改革検討会を立ち上げて産地の再生策を検討していた。
- ② 町内のウメ加工業者では、生産量減少に伴う原料不足の懸念から自社生産を模索しており、検討会で農地バンク等を活用した推進方策を決定し、地元農家と栽培法人(農地所有適格法人)を設立して園地の整備・改植を行った。
- ③ 当該地区は以前から加工事業者との結びつきがあったことから合意形成がスムーズに行われ、農地の賃料も幼木期は低く抑えて成木期に見直すこととし、農地バンクがエリア内の園地を借り入れて当該法人に一括して転貸した。地域集積協力金はウメ園の維持管理費(肥料代、農薬代、草刈経費等の育成費)に活用した。

取組の成果

- ✓ 集積率が
56.5%→71.4%に上昇
- ✓ 受け手の声「加工原料を自社生産することで、安定的な原料確保を図ることができる。」

ウメ園エリア
バンク活用前



ウメ園エリア
バンク活用後



農地バンク 活用面積	借入面積	17.7ha
	転貸面積	17.7ha
	新規集積面積	3.7ha
地区内農地面積	24.8ha	
集積面積・集積率	14.0ha(56.5%) → 17.7ha(71.4%)	